

2013

## 高齢者同居家庭の非常持ち出し袋

Emergency Bag for Households with Elderly

AD14 田中 恵  
指導教員 杉島 一男

### 1. 研究目的

足腰の悪い祖母の行動が普段から心配をしていたが昨年の震災が起きたことにより、不安はさらに高まり、祖母はもちろん一緒に逃げるだろう私も危険な目に合うと考え本研究を進めることに決めた。

### 2. 調査と分析

非常持ち出し袋の中身を調べる為、総務省消防庁や内閣府が選定した災害時の非常持ち出し品リストから必要最低必需品を調べた結果「食料」「水」「救急医療用品」「照明」等が必要であることがわかった。そこで持ち出し用品を確認し、容量や重量を確認した。しかし、これらを全てそろえるとかなり重くなり持ち運びが大変だと感じた。次に非常持ち出し袋を調査し、カート式とリュック式があることがわかった。カート式の方が、高齢者をサポートするためには適していると判断した。

ユーザー調査では、収納場所についてアンケートを行った結果ほとんどの方が、押入れの奥にしまっていると答えた。しかし、いざというときすぐに持ち出せないことも分かった。

また高齢者のいる家庭を調査したところ、高齢者は薬を毎日飲まなくてはならない方が多く薬箱をとっさに持ち出すことが難しいことが分かった。またその他に杖なども必要であることも分かった。

以上のことから持ち運びやすさに着目し、本研究の提案を行っていった。

### 3. コンセプトの立案

「きちんと収納でき、すぐに持ち出せる。」

- ・非常持ち出し袋も必需品もすぐに持ち出せる
- ・設置方法と収納方法の工夫。
- ・高齢者の手を引きながら運搬可能。

### 4. デザイン展開

運びやすさからカート式を選択し、必要最低限非常持ち出し用品を荷台に置き実際の検討を行った。運びや物の配置を考え、水を一番下に配置することで全体のバランスをとった。また避難所での使いやすさも考え持ち出し用品の種類別に容器を分け床に並べられるようにし、使いやすいように工夫した。以上の内容をふまえ、具体的な寸法検討を行いペーパーモデルを製作した。このモデルでは各容器の大きさを3種類に分け各パーツがスタッキングできるように工夫した。またに薬もすぐに持ち

出せるように検討した。薬箱を普段でも使用でき、避難時には引出しだけ持ちユニットと組み合わせすぐに持ち運びができるようにした。

普段の収納場所を下駄箱の隣と設定し、下駄箱の隣にあっても不自然でない形・色を検討しデザインを行った。

中間検証では「リュック式は立たせにくいのでこの提案はいい」「薬箱としても使えるのは薬の入れ替えをしなくて良いのでいい」など、おおむね好評をいただいた。しかし、まだ改善の余地があると自己で判断し、ケースを4種類に増やし、フレームの構造の強化を行った。後に最終検証を行った。救急医療用品の不足を指摘された為、改善を行った。

### 5. 完成図



### 6. 結論

最終検証において、「製品にしてほしい」などの好評を頂き、おおむね研究の目標は達成できたと考える。しかし、まだ多くの高齢者を助けるためには足りないところがあると思う。そのため更なる研究を進めていくことが必要だと思える。

### 文献

- ・“巨大地震 避難生活の必需品リスト”, 日本経済新聞, [http://www.nikkei.com/article/DGXNASFK12015\\_S1A310C1000001/](http://www.nikkei.com/article/DGXNASFK12015_S1A310C1000001/), (参照 2011-03-14)